

## 31<sup>st</sup> PReS Congress 2024 in Gothenburg (Sweden) 参加報告

兵庫県立こども病院リウマチ科 水田麻雄

2024年9月11日から14日まで、Gothenburgで開催されたPReS Congress 2024に参加してきました。Gothenburgは貿易と海洋が主なビジネスであり、自動車のボルボ社が本社を構えているSwedenでは第2の都市です。また19世紀に成立された大学が2つ存在することもあり学生を見かける機会も多く、歴史と落ち着いた趣を感じるすごしやすい街でした。今回はPReSの25周年記念の学術集会ということもあって、Opening CeremonyではPReSのPresidentであるAngelo Ravelli先生からのPReSの歴史に関する講演から始まり、PReSに長年貢献されてきた各国の先生方の表彰がありました。またフラッシュモブ的に始まる歌とダンスパフォーマンスは驚きの連続で、初日から会場は大いに盛り上がっていました。Opening Ceremonyの後はNetworking Receptionがあり、軽食とお酒を片手に参加者同士で交流を深めることができます。



図1 Gothenburgの街並



図2 World of Volvo

現地への日本人参加者は、東京女子医科大学の宮前多佳子先生、久留米大学の西小森隆太先生、東京科学大学の清水正樹先生、真保麻実先生、金子修也先生、自分の6人に加えて、Cincinnati Children's HospitalのGrant Schulert lab.に留学中の井上なつみ先生の合計7人が参加しました。学会参加費は条件により変わりますが300-850€です。



図3 PReS Congress 会場入口にて



図4 会食

日本人関連の演題は7つで、宮前先生が「Late-onset mevalonate kinase deficiency with non-erosive, osteoproliferative arthritis: a case report」、清水先生が「Distinct expression profile of inflammasome associated genes in systemic juvenile idiopathic arthritis」、真保先生が「Serum interferon-alpha levels in Japanese childhood-onset systemic lupus erythematosus: associations with disease activity and clinical characteristics」、自分が「Clinical usefulness of serum CXCL9/sTNF-RII levels for monitoring of disease activity in a patient with systemic juvenile idiopathic arthritis associated macrophage activation syndrome receiving canakinumab」、をポスター発表しました。また、井上先生は「Dynamics of neutrophil activation in the TLR-9-induced mouse model of macrophage activation syndrome」の演題でポスターツアーでの口演があり、自分と清水先生は共同演者として「Current treatment of macrophage activation syndrome worldwide the metaphor project, a PReS/PRINTO real-life international survey」の発表がありました。金子先生は Young Investigators Meeting(YIM) に学術集会開始前日から参加され各国の研究発表者と活発に議論し、学術集会本会でも「Pathogenic role of inflammasome activation and interleukin-1B overproduction in Kawasaki disease」が口頭発表の演題に選ばれ、堂々と口演されていました。Online での参加として、酒井先生は「Prevalence of herpes zoster in pediatric and young adult patients with systemic lupus erythematosus in Japan: using the Japanese large claims data」、山崎先生は「Urinary beta2-microglobulin as a predictive marker for clinical aggravation in progressive interstitial lung diseases complicated anti-mda5 antibody-positive idiopathic inflammatory myopathies」のポスター発表がありました。

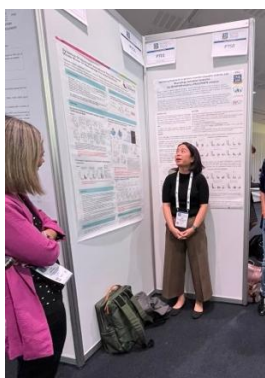


図5 ポスターツアーの様子



図6 YIM 口頭演題の発表の様子

PReS では演題登録者自体の口演発表は極めて少なく殆どがポスター発表となりますが、例年の Basic/translational science と Clinical の2つの Year in Review では世界中からの膨大な論文の紹介があり、各セッションでは pJIA の治療に関しての演者のディベートに合わせて Step-up か Step-down の治療をするか QR コードで投票したり、研究・臨床について専門家からの講演や、各国の疾患毎の患者背景や治療経過のデータ提示など興味深い内容が多数ありました。sJIA 関連では MAS 発症に関与する病態解析や引き続き肺炎合併例の病

態解析がトピックでした。また 11 ある working party は会期中にそれぞれ開催されており、自由に参加が可能です。尚、宮前先生は Congress 開始前から数多くの会議に朝から夜まで出席されていたため、大変な仕事量だったと思われます。

最後になりますが、PRAJ の理事長である宮前先生+国際委員のメンバー(西小森先生、清水先生、自分)と、PReS の次期 President である Seza Ozen 先生との meeting が会期中にありました。PRAJ の紹介動画を見ていただいた後に、PReS の global 化の方向性の中で PRAJ の重要性や、PReS congress と特に各 working party への参加の重要性、PRAJ からの川崎病についての知見の提供など、非常に建設的な意見を頂きました。

2025 年は 9 月 17 日から 20 日まで、Helsinki で開催されますので、PRAJ の会員の先生方はぜひ積極的に PReS を始めとする国際学会へ参加してみてください。

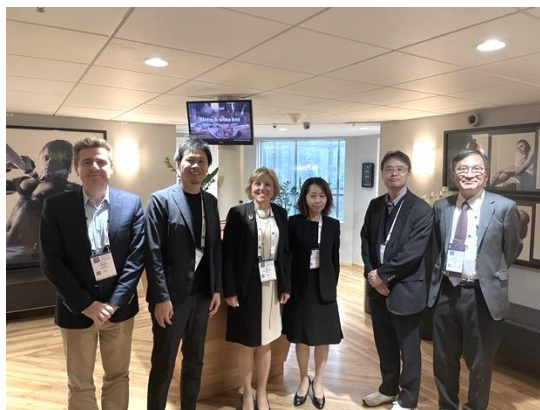


図 7 Seza Ozen 先生と一緒に



図 8 Meeting の様子